

都市再生整備計画 事後評価シート
相模大野駅周辺地区

平成23年3月

神奈川県相模原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	相模原市	地区名	相模大野駅周辺地区		面積	240ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	3,647百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	(道路)相模大野西通り線、市道相模大野北通り線、市道相模大野駅前、市道磯部大野、市道文京大野、(公園)旭町公園整備事業、豊町公園整備事業、林間公園再整備事業、(高質空間形成施設)相模大野コリド-改善事業、立体横断施設整備事業、(高次都市施設)自由通路等整備事業									
	当初計画から削除した事業		提案事業										
			(地域創造支援事業)自転車駐車場ラック改修事業、文化会館再整備事業、南市民ホール再整備事業、大野南地区こどもセンター植栽工事										
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			基幹事業	①(道路)市道上鶴間153号、②(道路)市道上鶴間線歩道整備事業、③(高質空間形成施設)相模大野北口線上屋整備事業、④(高次都市施設)市民・大学交流センター		①関連事業へ移行 ②道路事業の優先順位の見直しの結果、道路事業としての優先順位が下がり交付期間内の着手不可能となったもの ③④再開発事業の完了予定年度延期により期間内の事業実施が不可能となったもの。		①関連事業へ移行したため、指標及び数値目標に影響なし。 ②交通環境の改善と安全で快適なまちづくり目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 ③④高次都市機能の集積を図る目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。					
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	指標1	駅乗降客数の増加	人/日	111,212	H16	113,436	H22	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	地区内定住人口	人	38,500	H17	39,600	H22	—	41,200	○	あり なし	相模大野駅前の道路・コリド-等の基盤整備により、交通環境の改善と安全で快適な歩行者空間の創出が実現できた。また、学習・交流拠点機能が強化され、駅乗降客数の増加に繋がった。ただし、来年度以降再開発事業が完了の際は更に効果発現が図られる。	平成25年7月
	指標3	商店街の来街者数	人/日	103,244	H16	108,406	H22	—	120,100	○	あり なし	相模大野駅前における高次都市機能の整備、道路交通基盤整備や高質化によりアメニティが向上し、駅周辺商店街の来街者数が増加した。	平成26年3月
	指標4	来街者のまちの好感度	ポイント	40.4	H16	45.4	H22	—	41.4	△	あり なし	相模大野駅前の来街者の好感度は、より改善されたものの目標を達成できなかったが、再開発地区の平成24年度オープンにより駅前に新しい顔が完成し、都市基盤整備や高次都市機能が更に充実されることにより、好感度が向上するものと思われる。また、道路交通基盤整備や高質化事業については、安全性・利便性、アメニティの向上に貢献している。	平成26年3月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	その他の数値指標1	文化会館利用者数	人/年	359,990	H16			—	376,200			(総合所見)	予定時期
4)定性的な効果発現状況	相模大野駅西側地区市街地再開発事業において、平成21年12月に施設建築物工事が着工し、現在、平成24年度の完成に向けて工事が進捗していることから、再開発事業に対する関心が高まっており、新聞や地元向けの情報紙などに多数取上げられている。なお、参加組合員であるデベロッパーが行った地域住民へのアンケート(22.7.1~7.14実施)では、日常利用しやすい施設づくりを望んでおり、再開発事業に期待する声が多数寄せられている。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし						
	住民参加プロセス	公園整備におけるワークショップの導入	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後の他地区公園整備に関しても、出来る限りワークショップを導入する						
	持続的なまちづくり体制の構築	公園における維持管理活動の継続	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後の他地区公園整備に関しても、公園における維持管理をまち美化アダプト制度を導入するよう推奨していく						

様式2-2 地区の概要

相模大野駅周辺地区(神奈川県相模原市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値			
魅力ある中心市街地の形成とふれあいのあるまちの創造 市街地再開発事業による高次都市機能の集積を図る 交通環境の整備・改善による円滑な交通処理と安全で快適な歩行者空間の確保を図る。 公共施設の整備により、子育て支援や世代間でのふれあい空間の確保を図る		駅乗客の増加	単位:人/日	111,212	H16	113,436	H22	120,766	H22
		地区内定住人口	単位:人	38,500	H17	39,600	H22	41,200	H22
		商店街の来街者数	単位:人/日	103,244	H16	108,406	H22	120,100	H22
		来街者のまちの好感度	単位:ポイント	40.4	H16	45.4	H22	41.4	H22
		文化会館利用者数	単位:人/年	359,990	H16			376,200	H22
まちの課題の変化		<p>【当初の課題:改善された事項・残された未解決の課題】</p> <p>①住宅の過密解消のための低・未利用地の高度利用:公園整備によるオープンスペースの確保により過密解消が図られたが、相模大野駅西側地区市街地再開発事業が未了のため、低・未利用地の高度利用が一部未達成である。</p> <p>②市民の学習・交流拠点の不足:文化会館の改修、南市民ホール等の整備により、学習・交流拠点(高次都市機能)が充実した。</p> <p>③来街者増加に伴う地域にふさわしい都市基盤の整備:駅周辺における道路の改良、相模大野コリドー改善等都市基盤などの高機能化により、来街者の利便性・安全性が向上したが、相模大野駅自由通路未完了による利便性、安全性の不足が生じる。</p> <p>④住宅地域における子育て世代流入に対応した子育てを支援する公共施設の不足:大野南こどもセンター、南大野保育園の整備、及び旭町(旭森)公園・豊町(豊町あかつき)公園・林間公園の整備により、子育て支援施設の不足を解消し、子育てしやすい環境となった。</p> <p>⑤地区内の住民の憩いや交流の場として、また、災害時の一時避難場所としてのオープンスペースである公園や広場などの確保:旭町(旭森)公園・豊町(豊町あかつき)公園・林間公園の整備により、住民が憩い交流しやすくなり、避難場所ができたため防災性が向上し、安心して暮らせるようになった</p> <p>⑥交通面における不十分な幹線道路の整備やバリアフリー化:高質空間化や、バリアフリー等の安全で快適な歩行空間を整備したことにより、交通弱者を含む歩行者が、来訪し、回遊しやすくなったが、一部未実施の箇所があり早期完成が望まれる。</p>							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<p>【効果を持続させるために行う方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備した旭町(旭森)公園・豊町(豊町あかつき)公園・林間公園等に関して、住民参加による公園清掃等の維持管理活動の継続を図る。 整備した文化会館等の利用促進PRの充実や、商店街イベントの充実を図る。 整備した公園や、子育て支援施設の利用について、PRを継続する。 整備済み道路等の維持保全、及び、歩行者等交通安全の確保を図る。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低・未利用地を活用し、中心市街地にふさわしい広域的な商業・業務拠点の創出を図る。また、併せて基盤整備を行い、都市機能の強化を図る。 広域道路ネットワークを充実させるとともに、バリアフリー等が十分でない道路について段階的に整備を行う。 							